

副学長・医療保健学部看護学科長
坂本 すが

1. 授業評価の結果について

- 授業・実習ともに比較的高い評価を得られており、これからも学生の意欲や取り組みに答える授業を提供したいと思います。
- 少数ではありますが、「そう思わない」という回答については次のように考えています。確実な理解をめざして、グループワークから個人ワークに変更し成績は上がったが、満足度が下がった状況や、アクティブラーニングを導入した科目で授業評価が低くなった状況があり、学生が客観的に自己評価することで、自らの課題を自覚できたと考えられる一方で、学生のレディネスや得意な学習スタイルに対応できておらず、講義時間内で疑問を解消できていない学生があると推測されること。
- 「将来役立つと思うか」が低い科目については、将来像に照らして科目の目的を理解できていないと考えられること。
- また、平成 26 年度の評価についてはクラス間での差が目立ち、その原因を検討していく必要があると感じています。
- 実習科目については、実習場所の確保を最優先とせざるを得ない科目があり、内容に関する課題が指摘されたと考えます。

2. 授業において工夫した点について

- 前年度の授業評価を活用した改善に加えて、保健師・養護教諭の選択コースの進行と、次年度の新カリキュラム開始を視野に入れて、授業の工夫を行いました。
- 学生が明確な目標をもって学べるように、評価にループリック表を作成した目標・評価視点の明示を行い、学生が段階的に学べるようにしました。
- また、既習科目および続く実習科目等とを連動させ、効率よく授業を展開するよう内容と方法を工夫しました。
- 保健師選択制の進行に合わせて看護職に必須の内容を検討しプログラムの組み立てを行いました。
- 学習内容の確実な理解と定着のため、「授業前に既習の科目内容を事前課題や自己学習ノートとして提示すること」「ビデオ教材を増やしイメージ化を図ったこと」「講義中に個人ワークを導入すること」「中間に小テストを行うこと」等を行いました。また、アクティブラーニングを取り入れ、実践に模したワークと省察を繰り返すプログラムも導入しました。
- 学生の集中を促し、主体的な学びを促すために、患者や NTT 関東病院の看護師等が参加する講義・演習を行いました。また、事例を用いたり、ロールプレイを行って、実際に即したイメージと体験が得られるようにしました。その他、クイズを解くように進めて行ける e ラーニング教材を開発し適用しました。

- 学生の理解度を把握するとともに、学生の関心を授業に活かした双方向型の授業をめざして、授業ごとにリアクションシート等の記載を求め、質問がある場合にはタイムリーに回答するよう努力しました。また、自作の教材や講義テキストを毎年改訂しています。
- 実習科目については、実習前に既習技術の復習を行い、スムーズな導入をねらいました。
- 実習中は、学生個々の学習到達度を把握しこれに応じたプログラムを導入するとともに、臨地実習指導者と協力体制を強化しました。
- また、実習場所や内容を複数準備している科目においては、学習内容の公平性に留意し、きめ細やかな指導を心がけました。

3. 今後の授業への生かし方について

- 学生の習熟度や特性に合った指導を心がける一方で、学生の知的好奇心を高めることができるよう努力をしていきたいと思ひます。
そのためにも、関連科目間で科目内容の構成を見直し、到達目標を明確にして、精選を図りたいと考えます。
- 個人ワークやグループ学習では、学生が受け身ではなく主体的に取り組む事ができるように、目的や方法の説明を十分に行い、学生が時間的余裕をもって取り組めるよう計画的に実施したいと考えます。
- その他、学生の関心を引きだし主体的な取り組みを促進するために、事例を取り入れたり、実習や卒後の職業生活との関連を説明すること、また中間テスト等のフィードバックを充実させていきたいと思ひます。
- 実習については、臨床指導者や他教員と連携しながら、個々の学生のレベルに応じた具体的な指導を心がけつつ、思考力・探究力を含めた実践能力の獲得をめざしていききたいと考えます。

4. 学生に対して

- 授業・実習ともに学生態度の自己評価は高く、授業内容や運営に対する評価も比較的高いことから、皆さんのニーズに応える内容の授業が展開できていると考えています。その一方で、少数ではありますが「そう思わない」という回答や、昨年よりも評価が低下した科目、クラスにより評価差の大きい科目もありました。これらのことから、次のように考えています。
- ①教員は生涯にわたって発展していける看護実践能力の基礎を確実に獲得することをめざして、皆さんの意見や成績を参考に、授業方法を毎年改善しています。皆さんの自己評価が相対的に低かった科目には内容の難易度を高めたものがありました。これについては目標を段階的に示す工夫をし、達成感を得ながらもさらに高いものをめざしていけるようにしていくこと、同時に教材や課題提示を工夫し、皆さんが自分の力で学ぶ方法を学習できるようにしたいと考えています。
- ②クラスの差が大きかった科目については、時間割上の過密さやグループダイナミックスの観点から検討を行いたいと思ひます。集中しづらい時間帯のクラスで私語の多い状況があると、授業が進みづらくなります。

教員も授業内容や方法の検討に努力をします。皆さんもクラス全体が学習しやすいよう協力しあって欲しいと思います。

- ③また、看護学教育においては、全ての科目が関連し、看護実践能力の獲得と向上をねらって体系化されています。看護実践能力に関わりがない科目はありません。皆さんには、各科目がこういった能力の習得をめざしているのかを考えながら授業に参加して欲しいと思います。

5. その他

- 現在、授業評価は試験日に行っていますが、授業の最終日など、よりストレスの少ない日に行う方が適切な授業評価が得られるのではないかと、また授業評価項目については学生の態度に加えて、達成状況を自己評価するような項目「科目を通して成長したとを感じるか」「教員の指導によって考え・実践力が発展したか」を加えてはどうかについて今後の検討課題です。